西尾勝彦『言の森』テスト対策練習問題と過去問まとめ

年	組	番	名前

問1　『言の森』の作者を漢字で書きなさい。

問2　『言の森』の詩の形式を漢字5字で書きなさい。

問3　『言の森』は何連からできているか答えなさい。

問4　「言の木があり 言の森がある」という表現のように、「～のようだ」「～みたいだ」という言葉を使わずに、あるものを別のものに例える表現技法を漢字二字で何というか。最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：擬人
イ：直喩
ウ：隠喩
エ：対句

問5　第一連の「くちびる」と「ゆびさき」は、それぞれどのような言葉を表していると読めるか。最も適切な組み合わせを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：くちびる＝丁寧な言葉　ゆびさき＝乱暴な言葉
イ：くちびる＝声に出す言葉　ゆびさき＝書いたり打ったりする言葉
ウ：くちびる＝嘘の言葉　ゆびさき＝本当の言葉
エ：くちびる＝自分に向けた言葉　ゆびさき＝他人に向けた言葉

© ゆみねこの教科書

問6　古くから「言の葉」という言い方があり、言葉を葉にたとえて表現することがある。平安時代に書かれた和歌集の仮名序にも「人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける」という一節があるが、この和歌集の名前を次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：万葉集
イ：古今和歌集
ウ：新古今和歌集
エ：金槐和歌集

問7　第二連に「言の木があり 言の森がある」とあるが、「言の木・言の森」とは、具体的に何を表しているか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問8　第三連に「深く根の張った しなやかな木」とあるが、「しなやかな木」とはどのような心のあり方を表していると考えられるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：他人の意見に流されやすく、自分の考えを持たない心。
イ：自分の考えを絶対に曲げず、他人の意見を聞き入れない心。
ウ：強さとやわらかさをあわせもつ心。
エ：傷つきやすく、少しの困難で折れてしまう心。

問9　第三連に「緑まぶしい かろやかな葉」とあるが、「かろやかな葉」とはどのような言葉を表していると読めるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：相手を必要以上に傷つけない、やわらかくのびやかな言葉。
イ：誰にでも調子よく合わせる、適当な言葉。
ウ：重みや責任感がまったくなく、すぐに忘れられてしまう言葉。
エ：自分を良く見せるためだけの、うわべだけのきれいな言葉。

© ゆみねこの教科書

問10　第三連と第四連には、よく似た言葉の形を並べる表現技法が使われている。この表現技法を漢字三文字で何というか答えなさい。

問11　第四連に登場する「雨」と「太陽」は、それぞれ何を例えたものか。詩の中から抜き出して答えなさい。

問12　作者はなぜ、「本を読むこと」が森（心）を育てる「雨」になると考えているのか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：本を読むと知識が増え、テストで良い点数が取れるようになるから。
イ：本を読むことで新しい知識や多様な感情を知り、心が深く豊かになるから。
ウ：本を読むことで、誰とも関わらずに一人で静かに生きていけるようになるから。
エ：本をたくさん読めば、難しい言葉を使って他人を言い負かすことができるから。

問13　作者はなぜ、「あなたと生きていること」が森（心）を育てる「太陽」になると考えているのか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：他者と関わることで、人の痛みや喜びを理解し、心が温かく柔軟に育つから。
イ：他者と競争し、勝つことで自分の強さを証明できるから。
ウ：自分一人では生きていけないので、誰かに頼って生きるしかないから。
エ：他人の目を気にすることで、規則正しい生活が送れるようになるから。

問14　詩の中で「その森で」「育てていこう」や、「もしかすると / 僕にとって」という言葉が繰り返されている。このような表現技法を漢字三文字で何というか答えなさい。

© ゆみねこの教科書

問15　『言の森』で作者が伝えたい主題（テーマ）として、最も適切なものを次の中から一つ選び、〇で囲みなさい。

ア：自然の森を守るためには、適度な雨と太陽の光が必要不可欠であるということ。
イ：言葉をたくさん知っていれば、それだけで人の心を動かすことができるということ。
ウ：言葉の源である心を、読書や他者との関わりを通して豊かに育てていくことが大切だということ。
エ：美しい言葉を使うためには、本を読んで古い時代の言葉遣いを学ばなければならないということ。

© ゆみねこの教科書

西尾勝彦『言の森』テスト対策練習問題と過去問まとめ（解答）

問1　西尾勝彦

【解説】西尾勝彦さんは、現役の高校の国語教員として働きながら、詩人としても活動しているよ。漢字の書き間違いに注意しよう。

問2　口語自由詩

【解説】『言の森』は、今の私たちが普段使っている話しことば（口語）で書かれているね。さらに、五・七・五などの決まった音数や形式にしばられない自由詩なので、「口語自由詩」となるよ。

問3　四連（4連）

【解説】詩の「連」とは、行をあけて区切られた詩のまとまりのこと。『言の森』は、4つのまとまりからできているよ。

問4　ウ

【解説】「隠喩」、または「暗喩」と呼ばれる技法だよ。「直喩」は「～のようだ」を使って直接的に例える技法のことだね。

問5　イ

【解説】「くちびる」から発せられるのは、声に出す「話し言葉」。「ゆびさき」を使って生み出されるのは、ペンで書いたり、スマホやパソコンで打ったりする「書き言葉」を表していると読めるね。

問6　イ

【解説】紀貫之が書いた『古今和歌集』の仮名序の一節だよ。昔の人も、言葉は心という種から生え出る「葉っぱ」のようなものだと考えていたんだね。

© ゆみねこの教科書

問7　（人の）こころ

【解説】第二連に「人のこころには 言の木があり 言の森がある」と書かれているね。言葉（葉）は、心の中にある「木」や「森」からやってくるものだと表現しているんだ。

問8　ウ

【解説】「深く根を張っている」から自分の芯（強さ）はしっかりと持っているけれど、「しなやか」だから他人の意見や新しい考え方も受け入れることができる。強さとやわらかさをあわせもつ心を表していると読めるね。

問9　ア

【解説】生き生きとした「緑まぶしい」葉っぱのように、相手の心を明るくし、重くのしかからずにスッと心に届くような、優しくてのびやかな言葉を表していると考えられるよ。

問10　対句法

【解説】「深く根の張った / しなやかな / 木」と「緑まぶしい / かろやかな / 葉」、「森を潤す雨は / 本を読むこと」と「森を照らす太陽は / あなたと / 生きていること」のように、似た形の表現を並べることでリズムを生み出し、それぞれの役割を際立たせているね。

問11　雨：本を読むこと
太陽：あなたと生きていること

【解説】自然の森を育てるために水（雨）と光（太陽）が必要なように、心の森を育てるためには「本を読むこと」と「他者と生きること」が必要だと表現しているんだ。

問12　イ

【解説】本を読むことで、自分が知らなかった世界や他人の気持ちを知ることができるよね。それは、乾いた土に静かに雨が染み渡るように、心に栄養を与え、心を深く豊かにしてくれると考えられるんだ。

© ゆみねこの教科書

問13　ア

【解説】人は他者との関わりの中で心を育てていくものだよね。一緒に笑ったり、時には悲しんだりぶつかったりすることで、人の気持ちがわかるようになる。それは、太陽が森を明るく照らし、木々を強く成長させるように、心を温かくしなやかに育ててくれると考えられるよ。

問14　反復法

【解説】同じ言葉を繰り返すことで、作者の願いや思いの深さを読者に強く印象づける効果があるんだ。

問15　ウ

【解説】言葉（葉）は心（森・木）から生まれるものだから、美しい言葉（かろやかな葉）を生み出すためには、言葉の源である心を豊かに育てる必要がある。そして、その心を豊かにするための栄養が、「本を読むこと」と「他者と関わること」なんだね。

© ゆみねこの教科書